

新潟大学人文・法・経済科学部同窓会（青松会）会津支部

会津支部だより（第十五号）

令和八年四月一日発行

会津支部だより

第15号

令和8年4月1日

編集発行

新潟大学

人文・法・経済科学部
同窓会（青松会）会津支部

（発行人）小澤清辰

（事務局）

会津若松市川原町2-26

☎ 090-2026-8442

zkravmh@bd6.so-net.ne.jp

（鈴木伸康宅）

支部長挨拶



小澤清辰

昭和55年経済学部卒

新潟大学三学部同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会活動へのご協力に心より感謝申し上げます。

さて、昨今の物価高が国民生活に大きな影響を与えておりますが、顧みますとアベノミクスは大規模な金融緩和により、2パーセント程度の物価上昇を目指しておりました。デフレが景気低迷の主因だとして、日本銀行が大量の国債や株式等を購入し市中にマネーを供給することで円の高値を下げ円安と物価高を促し、デフレからの脱却を図った訳です。結果として物価は他の要因もあって上昇しましたが、賃金上昇が追いつかず国民生活を苦しめる皮肉なことになっております。

思いますに、デフレが景気低迷の主因ではなく、景気が悪くて売上げが伸びないので、安売り競争の結果デフレになったのであって、原因と結果を混同しているのではないのでしょうか。

高市首相はアベノミクスを経済対策の模範としているようですが、円安を放置したまま対処療法的な物価高対策を行っても、物価高は収まらず国の財政悪化だけが進むような気がしてなりません。

人口減少と財政悪化により、地方大学を取り巻く環境は厳しい状況が続くことが想定されますが、同窓会会津支部としましては母校の発展に少しでも貢献出来るよう、知恵を絞って活動して参ります。同窓生の皆様には、何卒ご加入ご参加よろしく願います。

令和8年度

新潟大学人文・法・経済科学部同窓会
（青松会）会津支部総会

のお知らせ

日時 6月13日（土） 11時

場所 ホテルニューパレス

会津若松市

会費 6,000円（予定）

4月末、往復はがきでご案内しますので、万障繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。



令和7年度総会にて

随想

シリーズ

大学を卒業してから

田村敏章

平成14年法学部卒



群馬県支部の田村敏章と申します。令和7年6月14日に開催されました青松会会津支部総会に支部間交流の一環で参加させていただきました。その節は大変お世話になりました。美味しい日本酒をたくさん飲ませていただき、楽しい時間を過ごす事ができました。さて、今回、随想文のご依頼をいただきまして、学生時代の出来事を思い返していたところ、雪の便りを聞く季節ということもあり、この時期、スキーを楽しんでいた事を思い出しました。

ご存じの方も多いと思いますが、新潟市内からスキー場は近くないのですが、周りにスキースノーボが好きな同級生が多かったため、湯沢方面や上越方面、福島方面などあちこち出かけていました。

アルツ磐梯や猫魔スキー場もお気に入りの一つでよく行っていました。まだスマホはおるかカーナビも一般的でない時代（そんなに昔の話ではないですよ）、猫魔スキー場に行く予定が道を間違っ

ました。道中の色々な出来事も今となつては良い思い出です。

それから、スキーと切っても切れないものと言つたら温泉ですね。この時期になるとゼミの仲間と温泉地へのスキー旅行を企画するのが楽しみでした。一日みんなで滑つて、温泉に入つて、酒を飲んで、雪の降るなか温泉街をわいわい散策するのは格別です。

そんな事を思い出していたら、また行つてみたくなりました。ただ今はスキーよりも温泉がメインになりそうです。

随想 縁は大切



鈴木睦治

昭和59年人文学部卒

早いもので、新潟大を巣立つて42年、退職後の今も英語教員として教壇に立ち続けることができています。その原点を遡ると、やはり新潟大との縁だなと改めて感じます。

当初、私は一浪生で早稲田大に合格内定しており、あまり新潟大に魅力を感じていませんでした。キャンパス周辺はまだまだ未発達で海しがなく、商店街もなく（正門前の美味しい定食屋と内野へ下る途中の喫茶店はよく行きました）、構内を、スイカを満載したトラクターが走っているのは衝撃でした。ただ実際は、キャンパスよりも、奨学金を注ぎ込んで買ったスクーターで万代橋や古町や海沿いを楽しく走り回っていたようです。

さて、私は英語教員を目指していましたが、二宮教授と内山教授には公私ともに本当にお世話になり、それが英語教員への意志を固めたと思います。



chatGPTで
ジブリ風に

何度も食事に誘つてくださり、家庭教師の口を紹介してくださり、卒論の個別指導を遅くまで

してくださいました。経済的にも学問的にも、大きな支えであり、先生方との縁には感謝です。

運よく卒業後は福島県の教員に採用され、さまざまなところで仕事をさせていただきましたが、同期の五ノ井君や佐竹君の存在も大きかったです。彼らと同じ教員になり、いろいろな仕事や会合で顔を合わせる事が良い刺激となり、教員を長く続けられたと思つています（彼らは思っていないかもしれませんが）。年数を重ねていくと、県内外の会議等で新潟大の同期生や先輩・後輩に出会うことも多くなりました。新潟大に行った教え子が福島や他県の教員となり、会議や仕事で一緒になることも嬉しいものです。

何より、今現在新潟大に行った教え子（教員）と一緒に学校に勤め、且つその教え子の子供（生徒）を教えているという事で、二世代にわたって関われるという幸運に恵まれています。これこそ縁ではないでしょうか。新潟大を通しての縁を今後も大切に繋いでいきたいと思つています。

随想 大学での思い出



佐竹正憲

昭和59年人文学部卒

私が新潟大学に入学したのは、一九八〇年（昭和五五年）でした。入試当日、法

文学部校舎の前で開場を待っているとおそらく乗馬部の学生が構内を馬で闊歩して行きました。「大学に馬！」積雪はなかったものの風が強く寒々しい光景は、私の新潟大学との出会いの一面面として記憶されています。「共通一次」の二回目で、この年から法文学部が人文・法・経済学部に変更されました。現在、大学周辺はアパートだけでなく様々な店舗ができています。しかし、当時は大学が「砂上の楼閣」と揶揄されて周辺には西瓜畑が広がり、下宿屋、アパートの他、住宅はまだ多くはありませんでした。最初の下宿は一の町でした。一年で出て二の町に引っ越しましたが、十六名の住人の内、十三人が一年生。教育学部以外のすべての学部の学生がいて、いろいろな学部の話聞くことができました。

出身地も北は北海道から、南は福岡まで。北海道から来た友人の帰省にあわせて、フェリーで小樽まで行き、友人宅に泊めてもらいながら乗用車で北海道を旅行できたのは良い思い出です。

二年生になって原付を譲ってもらい、アルバイトに行くにも遊びに行くにも行動半径が大いに広がりました。さらに遠くに行きたいと思い、当時のバイクチームに便乗して中型自動二輪の免許も取得。中型二輪を所持していた友人と二人乗りでツーリングしたのも良い思い出です。

しかし、原付でスリッパ事故を起こして怪我してしまい、前期調査後の秋休みを寝て過ごすはめになったこともありました。心配して見舞いに来た同じゼミの友人が、漫画のように目の周りが内出血した私の顔を見て思わず大笑いしたのは恥ずかしい思い出です。

親しくなった友人たちとは、よく下宿を行き来させてもらいました。同じゼミの友人の下宿には頻繁に出入りしたせいで住人の方々としたいへん仲良くさせてもらい、今も年賀状をやりとりしています。

昨年度は、同期国文科の集まりがあり、二十三名の同期の十九名が新潟市で旧交を温めました。私の代は割と頻繁に同級会を開催しており、他の代の方から驚かれています。

しかし、同級会にお招きすると快く参加してくださった宮崎莊平先生は一昨年、また、近代文学の伊狩先生、万葉ゼミの渡部先生も亡くなられていて、恩師はみな鬼籍に入られてしまいましたのは残念なことです。

卒業してから四十一年。退職したら悠々自適の生活かと思っていました。が、「生きているうち働けるうち日の暮れぬうち」を心に刻み、先を見据えながらやっていきたいと思っています。

随想

五十嵐寮の思い出

佐藤 章

昭和61年工学部電子工学科卒

昭和56年の春、私は期待と少しの不安を胸に、新潟大学の門を叩きました。工学部電子工学科への入学と同時に始まったのが、五十嵐寮での生活です。

入寮したのはA棟421室、約六畳の個室は、私にとって初めての「城」でした。親元を離れ、慣れない手つきで始めた自炊や洗濯。限られた予算と時間の中で、試行錯誤しながら生活を営んだ日々が懐かしく思い出されます。中でも私の「得意料理」といえば、丸美屋の麻婆豆腐の素で作った麻婆豆腐を、炊き立ての白飯に豪快にぶっつけた「麻婆豆腐丼」でした。安くて手軽で、何よりお腹を満たしてくれるあの味は、今でも思い出すと当時の情景が浮かんでくる、私の青春の味です。

寮生活の何よりの醍醐味は、やはり仲間との交流にありました。夜な夜な談話室に集まっては、麻雀



五十嵐寮談話室の風景

に興じたり、安い酒を酌み交わしたりしたもの。学問の議論から将来の夢、あるいは他愛もない雑談（こちらがメイン）まで、夜が明けるまで語り合ったあの熱気あふれる時間は、今となってはかけがえのない財産です。

また、学食で開催された新人歓迎コンパや追出しコンパの賑わいも忘れられない思い出の一つです。寮生で溢れかえる食堂の喧噪と、旅立つ先輩や新しく加わる後輩たちと酌み交わしたアルハラ無用の宴は、今も鮮明に記憶に残っています。

卒業してから、早いもので四十年が経ちました。五十嵐寮で過ごした四年間は、私の人生土台となりました。会津の地で、当時の思い出を糧に、これからも同窓生の皆様と絆を深めていければ幸いです。

随想

未来図とはかけ離れたけれど

中川 廣文

平成10年法学部卒

大学を卒業して30年あまりが経ちました。学生のときに思い描いていた未来図とは全く異なる現在地におりますが、東京、出雲、仙台と各地を転々とした後、地元の会津に戻って家族ができ、6歳の長男と3歳の長女、1歳の次男の子育てに腰を痛めながらも楽しく毎日を過ごしています。

仕事は20年ほど国会議員の秘書を務め、今は市議会議員（1期目）として政治の理想と現実を自分なりに受け止めながら、故郷会津が少しでも住みよい街になるよう駆けずり回っています。

新潟での学生時代を含めて、一度故郷を離れて様々な街で暮らした経験は、政治家・議員として街づくりを考える上で貴重な経験となりました。

この「会津支部だより」を手にする同窓生の皆様にも、離れて想う故郷会津と、戻って感じる今の会津と、多様なご経験・視点からご指導いただき、また各々で会津の活性化にご貢献いただきたいと思います。

同窓の絆の強さ、有難さも、今の職責の中で改めて痛感しています。会津若松市役所職員の出身大学は新大卒が最多となり、今年度も4名の新大卒業生が新人として入庁しました。議員といっても一人では何もできません。当然職員の方とも共通の意識を持って市政に当たるのがですが、同窓というだけで親近感が湧き「あなたは一体何者だ？」という初対面のハードルが吹き飛び、市の事業についてお互いの考えを即ぶつけ合うことができるのは幸運でもあり最大のメリットです。

日本海側特有の曇天が多い新潟の地での学生時代は、授業にも出ず部活とバイトに明け暮れており、気持ちはいつも晴れ晴れとしていました。今の現役学生にも（気持ちには）そうであってほしいと思います。まず、会津に戻ってることがあれば、会津でも毎日晴れやかな気持ちで過ごすことができるよう、地域づくり、人づくりにこれからの全力で取り組みたいと思います。



議場で同僚議員と政策討議

随想 軽音楽部の友人達

荒井 雅 樹

平成24年人文学部卒

大学卒業から14年が経ちましたが、ふとした瞬間に思い出すのは、五十嵐キャンパスに響いていた激しいバンドサウンドと熱狂。私の大学時代は、まさに軽音楽部と共にありました。

私はギター担当で、B[♭]や凜として時雨、THE BACK HORNなどの邦楽ロックから、ポップなアニメソングなど、好きな音楽を夢中でコピーしました。当時、軽音楽部は100名以上の大所帯で、自分よりも上手いメンバーから日々刺激を受けつつ、切磋琢磨しながらギターの腕を磨くことができました。新人歓迎ライブの緊張感、熱気に包まれた新大祭、そして他の部活やサークルとも音楽をぶつけ合った新大ロックフェス。ステージから見たあの景色と、メンバーと音が一つになった瞬間の高揚感は、今も私の胸に鮮明に刻まれています。

部活以外でも、友人たちとは夜通しカラオケに籠もって喉が枯れるまで歌い明かし、朝方に店を出た後も、大学前の牛丼屋で好きな音楽やアニメの話で盛り上がりつていました。我ながら呆れてしまうエピソードですが、何物にも代えがたい大学時代の思い出です。

そして、練習の合間や打ち上げで通い詰めた、新潟大学前の担々麺屋。刺激的な辛さとはほどよい酸味の真っ赤なスープ、あの担々麺はまさに中毒性のある一生忘れられない味で、卒業した今でもあの味が無性に恋しくなります。友人から「久しぶりに食べた!」と写真が送られてくることがある

りますが、心底羨ましくなります。

そんな軽音楽部の仲間たちは、卒業後もアーティストのライブや旅行を共にする、一生の大切な友人です。2025年の年末には、久しぶりに同期や後輩と月岡温泉に行っていました。温泉に浸かり、お酒を飲みながら語り合えば、一瞬で大学時代に戻れる。そんな関係を築けたことは、新潟大学での生活が私にくれた最高の宝物です。



左の列の手前から3番目が私です

随想

私の大学生生活の転換期

中島 誠 也

令和3年経済学部卒

私は新潟大学経済学部を卒業してから地元へ帰り、市役所へ入庁し、5年が経とうとしています。社会に出て右も左もわからず、がむしやりに突き進んできた時間はあつという間に過ぎてしまいました。が、思い返してみると、大学生活の4年間というのは、このあつという間の5年間よりも濃厚で、私の人生に最も影響を与えた時間だったと感じます。

私が学生時代に熱心に取り組んだのは、サークル

活動でした。サークルは「DUO」という卓球サークルに所属していました。私がそのサークルに入ったきっかけは、当時のサークル長との運命的な出来事でした。

その出来事というのは、入学して早々、歓コンでたまたま隣に座っていたサークル長と仲良くなり、

たまたま帰り道が一緒ということもあってずっと楽しく話しながら帰り、話に夢中になりすぎて気づけばすでにアパートの前まで着いてしまいました。

私のアパートは住宅街の行き止まりに位置していたので、そのアパートの住民以外は用がないところでした。初めて会う人にアパートまで送らせてしまい申し訳ないと言ったところ、「え?、ここ俺のアパートだけ?」途中からなんでもついてくるんだらうと思って怖かったんだけど、「との反応で、まさかの同じアパートで、しかも部屋も隣でした。それからというもの、ことあるごとに私を誘い出し、様々な経験を共に過ごさせていただき、内向的だった私の性格も、多くの人とふれあうことで人とかかわり方はよりオープンとなっていきました。今ではそのサークル長とは家族ぐるみで付き合いのある仲となり、一生の友ができました。

勉強はそこそこで、本来の大学の意義とはそれてしましますが、私は大学のサークルを通して私の人生がより明るいものになったと確信しており、新潟大学に入学して本当に良かったと思っています。

